



木場小だより

教育目標：豊かな心と確かな学力を備えた、
心身ともにたくましい児童の育成
www.3-net13.hakusan.ed.jp/kiba-e



令和6年 1月 10日

小松市立木場小学校
校長 小山貴子

TEL：0761-44-2803
FAX：0761-44-5974
e-kiba@kec.hakusan.ed.jp

今年もよろしくお祈りします。



大雪で終えた終業式の後には比較的に穏やかな天候が続いた冬休みでしたが、元日には想像を絶する大地震が起きました。何度も大きな揺れがあったので、保護者の皆様から早々に子ども達の無事をお知らせいただいた時には、胸をなでおろしました。ご親戚やお知り合いで被災された方もいらっしゃることでしょう。心よりお見舞いを申し上げますとともに少しでも早く元の生活が戻ることを願っております。

9日、今年も児童玄関には校務員さん手作りの門松が子ども達を迎え、学校に

は元気な声が戻ってきました。各教室の担任からの黒板メッセージは、新たな挑戦を応援してくれています。3学期は1年の中で最も短い学期ですが、現在の学年のまとめと次の学年への準備をする学期です。1, 2学期にできるようになったことを自覚し、できたことは当たり前のようにし、さらに1つでも2つでもできることを増やす3学期になることを望んでいます。

○登下校について

地震の影響で道路のヒビが大きくなっていたりマンホール周辺が軟弱になっていたりとあります。子ども達にも注意喚起はしておりますが、ご家庭でも通学路の安全を確認していただき、気になることがあれば、学校又は町内会にお知らせください。

○避難訓練について

例年、阪神淡路大震災があった17日に地震の避難訓練をしています。今回の揺れの際にも大人より子ども達の方が適切な行動をとっていたとの話を聞き、避難訓練の大切さを感じています。けれども今回の地震はあまりにも身近で起きた上、被害も大きいため、訓練にも恐怖を感じる子がいることが考えられます。そこで疑似音を流したり実際に行動したりするのではなく、全校に対する校長の話に加え、学年に応じた話を担任が教室で行う形で実施します。

生活目標「最後までがんばろう」

始業式では生徒指導担当が、2学期の終業式にした「たつどし」の約束のふり返りと3学期の目標をインタビュー形式で尋ねました。4月に「キャリアパスポート」に記入した目標はどのくらい達成しているのでしょうか。「1. 01の法則・0. 99の法則」を心に刻み、「学年末までになりたい自分」に向かって最後までがんばってほしいです。



新たな年への思いを込めた書き初め

それぞれの担当の先生からの話の後には、凜とした空気の中、姿勢よく、気持ちを集中させて、丁寧に書き初めをしている子ども達に、新たな年に向けての意欲を感じました。



1年生は「お正月におそうにをたべました。からだがかぼかかしました。」2年生は「きれいなはつ日の出を見ました。新しい一年がはじまります。」と鉛筆で書きました。3、4年生は各教室で、5、6年生は体育館で筆を持ち、「友だち」「明るい心」「新しい風」「将来の夢」と書きました。お家でもたくさん練習したのでしょう。2学期の練習の時と比べ、ずいぶん上達していました。昨日、ひとりひとりの作品を見、審査を行いました。 「字は心」 作品からはそれを書いた子の個性や気持ちを感じることができました。子ども達ひとりひとりの個性、よさをさらに伸ばしていきたいものです。

昨日、ひとりひとりの作品を見、審査を行いました。 「字は心」 作品からはそれを書いた子の個性や気持ちを感じることができました。子ども達ひとりひとりの個性、よさをさらに伸ばしていきたいものです。

「野球しようぜ！」大谷翔平選手からのグローブが届きました

全国的に話題になっていた大谷選手から寄贈されたグローブがメッセージと共に木場小学校にも届き、始業式で紹介しました。使い方については思案中ですが、まずは順番に教室に回し、全員が見たり触れたりしました。

大谷選手のメッセージにあるように、このグローブを見、触れることが、野球に限らず、子ども達それぞれが自分の夢に向かって力強く進んでいくためのエネルギーとなっています。



本校の子ども達もたくさんの素敵な夢をもっています。例年4年生がテレビこまつの「未来へのon-air」で自分の夢を話しています。本校の放送日は、本日1月10日～16日となっていますので、ご覧ください。

...

この3つのグローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

...

大谷翔平

二宮金次郎像額の修復

かつて本校の児童玄関に「二宮金次郎像額」がかかっていたのを覚えていらっしゃる方はいますか。本校の卒業生である故吉田三郎氏が昭和52年にご自身の快癒を祝って学校に寄贈してくださったものだそうです。長く子ども達の目に触れる場所に掲げてありましたが、学校の様々な改修工事の際に外されたのか、額がない状態でしまわれていました。ある時、南加賀地方史研究会の方が学校を訪問され、他校にある石像と異なり、本校の銅板エッジングの額はとても珍しい物であることを教えてくださいました。そういった貴重な物を破損した状態で置いておくことを気にかけていたところ、「創立150周年記念事業実行委員会」で額の修復をしていただくことになりました。学校の様々な歴史を知る資料として大切にさせていただきます。

